

平成28年8月教育委員会定例会会議録

平成28年8月24日 開催

静岡市教育委員会

平成28年8月静岡市教育委員会定例会次第

1 日時

平成28年8月24日（水） 午後2時

2 場所

静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室

3 日程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の決定

(3) 教育長の報告

(4) 議事

議案第10号 平成28年度補正予算案について

議案第11号 市立小中学校の適正規模・適正配置方針の策定について

(5) その他

(6) 閉会

平成28年8月教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成28年8月24日（水） 午後2時開会
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室
- 3 出席者 教育委員 委員長 伊藤嘉奈子 委員 伊澤 三郎
委員 橋本ひろ子 委員 杉山 節雄
教育長 高木 雅宏

事務局

教育局次長	森下 靖
教育局理事（教育環境・権限移譲担当）	高井 絢
教育局理事（学校給食担当）	森下 修一
参与兼教育総務課長	高津 祐志
教育総務課教育力向上政策担当課長	市川 靖剛
教職員課長	仁藤 治
教育施設課長	向達 寛
学校教育課長	川島 広己
学校教育課特別支援教育センター担当課長	仁藤 展輝
学校教育課特別支援教育センター指導主事	寺尾 祥訓
学校教育課主事	山内 成海
参与兼学事課長	廣瀬 陽
教育センター所長	瀧浪 泰
中央図書館長	佐野 和宏
文化財課登呂遺跡担当課長兼登呂博物館長	伊藤 寿夫
教育総務課主幹兼調整係長	宮城島清也
教育総務課主査	宇佐美亜希

4 日 程

(1) 開会

伊藤委員長 ただいまから平成28年8月教育委員会定例会を開催します。
佐野委員から、都合により本日の会議を欠席されると事前に連絡を受けていますが、6人の教育委員のうち、5人が出席しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する定足数を満たしております。

(2) 会議録署名人の決定

伊藤委員長 本日の会議録署名人を高木教育長に指定

(3) 教育長の報告

高木教育長 資料「8月定例会 教育長報告」により報告

(4) 議事

伊藤委員長 本日は、議案1件の審議を予定しておりましたが、1件の追加がございましたので、議案2件についての御審議をお願いいたします。また、その他の案件が4件あります。

議案第10号は、静岡市議会の9月定例会に提案される議案であり、議案第11号の審議に当たっては、市の機関相互の協議に関する情報が必要となります。その他の案件には、検討段階の未成熟な情報が含まれている案件が1件、情報を整理又は確定した後に公表を予定している案件が1件あります。

これらは、現時点での公開に適しませんので、旧地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書きの規定により、非公開の扱いとしたいと思います。

各 委 員 異議なし。

伊藤委員長 皆様に御承認いただきましたので、議案第10号及び第11号、その他の案件のうち2件につきましては、非公開の扱いとします。

<議案第10号 平成28年度補正予算案について> (非公開)

森下理事 議案説明

各 委 員 承認

〈議案第11号 市立小中学校の適正規模・適正配置方針の策定について〉（非公開）

教育総務課長 議案説明

各 委 員 承認

(5) その他

○ 登呂遺跡出土品の重要文化財指定について

登呂遺跡担当課長 資料に基づいて説明

各 委 員 了承

○ 平成28年度熊本地震に伴う職員の派遣について

教育局次長 資料に基づいて説明

資料にも添付しましたが、熊本市の教育長からお礼状をいただき、今回の支援につきましても、ひと段落ついたというところですので、本日、支援状況につきまして御報告をさせていただきます。

派遣した教職員を代表して特別支援教育センターの寺尾指導主事、支援隊に参加した行政職員を代表して学校教育課の山内主事から御報告をさせていただきます。

特別支援教育センター指導主事

学校教育への支援を目的に、私と城内中学校の監物教諭の2人が派遣されました。私たち2人の支援活動について、報告させていただきます。資料の2ページをご覧ください。熊本市内の様子です。写真のように熊本城は石垣が崩れ、立入禁止になっています。崩れた壁や家庭のごみが至るところに積み上げられていました。

6ページをご覧ください。倒壊の危険性のある建物には「危険」の表示があります。交通については、いくつかの橋の倒壊のため、通勤の時間帯は慢性的な渋滞がありました。ただ、繁華街はにぎわいがありました。

続いて、7ページをご覧ください。壊滅的な被害のあった益城町の状況です。益城町では、長期的な避難所運営が行われました。私どもの派遣された学校の被害状況は写真のとおりです。コンクリートにはひびが入り、特に校舎のつなぎ目に破損が見られました。

3ページをご覧ください。廃棄備品は校舎の1カ所にまとめられて、処理が間に合わない状況でした。校舎内には、他県からの応援メッセージが掲示されていました。

では、実際の支援活動について、報告いたします。

1ページをご覧ください。まず、私の報告です。派遣された学校の詳細は記載のとおりです。この学校の大きな特徴は、特別支援教育コーディネーターを兼務する特別支援学級担任が特別休暇中であることです。そのため、学級担任支援を中心に活動しました。具体的には、特別支援学級の教科指導とソーシャルスキルトレーニング、通常学級のソーシャルスキルトレーニングの出前授業です。ソーシャルスキルトレーニングとは、良好な人間関係や適切な学校生活につなげるための行動の仕方を教える指導です。

資料の「2 派遣期間の業務について」にある「がまんします」が、それに当たります。

9ページをご覧ください。家庭環境、社会環境の変化の中で、子どもたちも保護者も相手に合わせる事が苦手になってきているように感じます。それに伴い、子どもたちの人間関係を築く力が不十分になっていると考えられることから、特別支援教育センターでは学校に出向いてのソーシャルスキルトレーニング等の出前授業を業務の一環として継続的に行っています。

4ページに戻ります。まず、特別支援学級の授業です。低学年の特別支援学級担任は自閉症・情緒学級を初めて担当する状況で、子どもたちの特性に合わせた指導に苦慮していました。そこで、国語と算数の授業を参観してもらい、特性に合わせた指導を具体的に伝えました。写真中段の左側をごらんください。この教室では、このときに5名が学習しています。2つのグループでの授業をできるだけ刺激の少ない環境で行うため、写真のように机の向きをグループごとに変えました。また、目の前で具体物を操作し、子どもたちが注目しやすい環境で授業を進めました。

次に、通常学級の授業です。下段右側の写真が授業の様子です。

授業内容を簡単に説明すると、「授業中に友達と話したくなったり、席を離れたくなったり、絵を描きたくなったりしても我慢しなければいけません。我慢できれば勉強が分かるようになります」という授業です。プリントを使って考える学習場面と関わり合いのあるゲームの場面で授業を構成し、我慢することでみんなが楽しく活動できることを意識づけました。

写真のように、私と担任の先生と一緒に授業を進めました。この授業は、1年生の5クラスで行いました。通常学級の6年生では、「ストレスマネジメント」の授業を行いました。「ストレスを上手に減らすことで誰もが安心して生活できる」という授業です。

写真下段の左側の場面は、ストレスを風船に見立てて、ストレスが増え続けると風船が膨らみ続けることを伝えています。ささいなきっかけで破裂することを針を刺したときの風船の破裂で感じ取らせました。その後、ストレスの上手な減らし方、つまりストレスマネジメントの方法を子どもたちと一緒に行いました。具体的には、深呼吸法と筋肉をぎゅっとかたくしてから一気に抜く筋弛緩法です。

授業の最後に、針を刺しても破裂することなく徐々に空気が抜けていく特殊な風船を見せながら、ストレスを上手に減らすことで周囲には迷惑がかからないことを伝えました。子どもたちの感想には、「ストレスを自分でコントロールできるとは思わなかった」というものが複数ありました。震災による不安定な環境の中で、子どもたちがけなげに生きてきたことに胸が熱くなりました。続いて、監物教諭の活動です。5ページをごらんください。

監物教諭は、児童支援に取り組みました。学校全体を参観した中で感じた気になる子に声をかけたり、一緒に遊んだりしながら心の安定につなげようと努力しました。特別支援学級では、担任の出張の際に授業を行ったり、担任の指示を受けて個別学習のサポートをしたりしました。給食時間も児童と一緒に過ごし、一人一人の思いを受けとめる支援を行いました。

5日間という短い期間でしたが、学級への効果的な入り込みの場面を理解し、児童支援を通して学級担任をサポートしました。

次に、職員への取材の報告です。報告書1ページと5ページに記載しました。

いずれの学校も、避難所になりました。監物教諭の派遣された学校は、自衛隊が入っていたため、学校は再開に向けての動きを最優先させることができました。また、阪神淡路大震災の支援チームの研修も受けていました。

それに対して、私が派遣された学校は、職員が避難所運営に大きく関わっていました。ただ、両方に共通しているのは、指示系統と役割が明確になっていることです。さらに、担当者個々の臨機応変な対応が、非常事態へのスムーズな対応に結びついていたと考えられます。外部からの関心事は被災地の心のケアをどのように進めるのかということに向かいがちですが、学校には健康診断や定数調査など、期日の決まった、やらなければならない業務があります。そこを調整しながら日々の業務に全力で取り組んでいる先生方の姿が強く印象に残りました。

5日間の被災地支援でしたけれども、学校のニーズと自分たちができることのバランスの中で活動してきました。

ただ、被災地支援とは言いながらも、被災した子どもの思いであ

るだとか緊急事態でありながらも笑顔を絶やさない先生方の表情、そして全職員に役割のある学校体制での子ども支援など、学ぶ要素が多分にあり、私たちにとって大変、有意義な研修の場になりました。貴重な研修の機会をいただいたことに深く感謝いたします。

学校教育課主事

学校教育課の主事の山内と申します。

私は、第一隊として4月26日から5月4日まで、熊本市北区へ被災地派遣に行かせていただきました。

主な支援概要ですが、資料の一番後ろのページをご覧ください

主な支援概要等は、資料をご覧いただきたいと思います。所感等ですが、熊本市北区は比較的、被害も少なく普通の町並みというふうに感じました。家や店などには、ほとんど倒壊がありませんでしたし、コンビニも営業していました。ガス、水道、電気といったパイプラインも通っており、ほとんど不自由がないような状況でした。

避難所には、高齢者の方が多くて、あまり子どもの姿は見受けられませんでした。避難所での主な運営支援ですが、避難者の健康管理や人数の確認、名簿の作成を行いました。そのほか、主な仕事として食事の準備などを行いました。食事に関してですが、資料の最後のページの写真を見ていただきたいのですが、自衛隊や民間ボランティアなどが炊き出しに来てくれて、それを私たちが配布するという形でした。

5月に入ってから、炊き出しなどはなくなって、学校にある物資で賄いました。そのような状況の中でも、地域のボランティア、町内会の皆様や民生委員、PTAの方々に非常に協力していただいて、私たちの出る幕のないように思えるほど働いてくださいました。そのような皆様の協力的な姿に、私たちは、とても感動しました。また、その半面、課題も、いくつか見えてきました。熊本市というのは地震が来ることを想定していなかったということですので、地域の防災想定もなく、自助も共助もあまり機能せず、非常に公助に頼っている状況でありました。

また、学校と行政側との連携がうまくとれてない部分もございまして、私の行った学校ではありませんが、他の避難所では、校長先生が行政側に伝えずに学校を再開する日を決めて学校の再開を進めたケースもありました。このように、早期の学校再開を目指す側と引き続き避難所運営を継続したい市役所の間で連携がうまくとれてない面もありました。静岡市も、今後、地震の発生が想定されていますが、学校が避難所になると予想されるため、学校再開に向けた避難所の集約施設等の確保や学校側との円滑な連携

が非常に大切になると感じました。

被災地に行ってみて、ニュースや新聞といったメディアで伝えられているような場所ではなく、比較的、被害が少ない場所であったと感じております。また、本当にボランティアや先生方が協力的だったということは、とても感じました。正直、1週間で私に何ができたかなと思う部分もあるのですが、被災地に行って、いろいろと感じたこともありますし、また、考えさせられることもあり、非常によい経験になりました。

今後、静岡も地震が来ると言われておりますけども、この経験を静岡市や自分の防災の教訓に生かしていきたいと思っております。

伊藤委員長 お二人とも、慣れぬ地での御活躍だったと思いますが、本当にありがとうございました。

高木教育長 お二人の方々、ありがとうございました。
派遣の時期からしばらく経っているので、熊本はさらに復興して、ふだんと変わらないような状況になっているところもあるのではないかと思います。熊本城の復興になかなか手をつけられないというような新聞報道、テレビ等を見ると、まだまだ傷跡があるのだなということを感じます。2人が熊本に行ったことで、熊本に行く前の自分と今現在の自分と、何がどう変わったのか、報告をしてもらえますか。

特別支援教育センター指導主事 やはり、緊急事態が起きた際に、いかに学校力、学校全体の力が重要になるかということ強く感じました。簡単な言葉で、よく一枚岩と言いますが、緊急事態のようなこと、想定されなかったことが起こっている中で、先生方が全体で子どもたちを支援していこうという姿を見て、これが1つの目的に向かって全職員が学校体制で取り組んでいる姿なのだということ強く感じました。目の前でそれが行われていたということが、私にとっては、最も大きな刺激になったことすし、学校には、こういうパワーが必要だということを感じました。

学校教育課主事 私が一番感じたのは、いかに何事にも事前準備をしておくかということす。もちろん、自分自身が被災したときのために避難物資をそろえておくことも必要ですが、学校の組織としても、教育委員会の組織としても、地震が起きたときに、いかにうまく連携を取るかということが非常に大切だと感じました。被災地に行ってから、自分自身の防災意識は非常に変わりました。防災の準備に対する意識が変わったので、防災用品を買いましたし、家族と

地震が起きたときには、どういう経路で、どこに集合してということをお話ししました。

杉山委員 私も、もう20年ほど前になりますかね、神戸に支援に行きました。行ったのは大社小学校という小学校でしたが、被災された先生がいらっしやいました。そういう先生方も、学校を守るために自分の家庭はそのまま奥さんに任せて、というような状況でした。やはり、そのような状況でしたか。

特別支援教育センター指導主事 やはり職員の皆様の中でも被災されている方はいらっしやいました。特に、私が印象に残っているのが、報告書の1ページに記載した用務員さんのお話が非常に刺激的でした。この用務員さんは、学校のすぐそばに住んでいらっしやるのですが、自宅も、茶たんす等の扉が開いてしまったり、かなり割れ物があったりという状況でしたが、自分は学校の職員なので学校に行かなければならないということで、その夜に学校に行ったのだそうです。

そうしたら、学校の周りに、数百台の車がクラクションをずっと鳴らしながら待機していたそうです。学校が避難所になるということが一般的な考え方で、そこに向かったのだそうです。人だかりになっているところもあって、そのような中で、用務員さんが何をしたかという、発電機と照明、工事現場によくある灯りですが、それを出したそうです。そうしたら、急に皆さんが安定して落ち着いて、やはり光というのは人を集めて来るものなのだなということをおっしゃっていました。「やはり寺尾さん、人だよ」ということもおっしゃっていました。そこまでに行く段階で、いろいろな人がそれなりの表現をして、けれども、自分はやるべきことをやってということで、そんな嫌な部分も、自分のやることによって人がぬくもりを感じたというプラスもマイナスも感じたというような話をしていたらっしやいました。

ただ、校長先生には、なかなか連絡がつかなかったり、御自身の家が倒壊していたりという状況もありましたが、早く来た者が、そこで行動していくというシステムで対応していました。

伊藤委員長 熊本の地震も大変だったと思いますが、静岡は、熊本市よりもさらに広域で、山あり海ありで、さらに東海地震の場合には津波被害も想定されるということですので、より大きな被害が発生する可能性があると思います。今回以上の災害があり得るということを前提に、子どもたちの安全、地域の皆さんの安全のためにもう一度、点検をしていただければと思います。

○ 平成29年度の組織機構改正への局要望等について（非公開）

教育局次長 資料に基づいて説明

各 委 員 了承

○ 全国学力・学習状況調査の結果について（非公開）

学校教育課長 資料に基づいて説明

各 委 員 了承

(6) 閉会

伊藤委員長 以上で、平成28年8月教育委員会定例会を閉会します。

午後3時52分